

東京電力ホールディングス株式会社

代表執行役社長 小早川 智明 様

原子力損害賠償の完全実施に関する緊急要求書

平成30年 2月 5日

福島県原子力損害対策協議会

会長	福島県知事	内堀雅雄
副会長	JAグループ東京電力原発事故農畜産物損害賠償対策福島県協議会	
		会長 大橋信夫
副会長	福島県商工会連合会	会長 轡田倉治
副会長	福島県市長会	会長 相馬市長 立谷秀清
副会長	福島県町村会	会長 鏡石町長 遠藤栄作

原子力損害賠償の完全実施に関する緊急要求

福島復興・再生には原子力発電所事故による損害が最後まで確実に賠償されることが不可欠であることから、これまで幾度にもわたり、国及び東京電力に対し、損害の範囲を幅広く捉え、被害の実態に見合った十分な賠償が迅速になされるよう強く求めてきたところである。

こうした中、住居確保に係る損害の賠償、長期間帰還することができない被害者への精神的損害賠償の一括賠償や避難指示解除準備区域等の精神的損害の追加賠償、農林業や商工業等に係る営業損害の賠償についての考え方が示され、その後、賠償手続が開始されている。

東京電力においては、被害者が一日も早く生活や事業を再建することができるよう、「指針」に明記されていない損害への対応を含め、被害者それぞれの立場に立った賠償を的確、迅速に行い、原子力災害の原因者としての責任を最後まで果たすべきである。

よって、福島県民の総意として、原子力損害賠償の完全実施と、次の事項についての確実な対応を強く要求する。

1 営業損害に係る賠償

(1) 農林業の営業損害に係る賠償

ア 平成31年1月以降の避難指示区域外における農林業の賠償について、農林業者や関係団体の意見を十分に踏まえた上で、継続検討することとなった事項を早期に確定させるとともに、追加的費用の賠償の内容について明示すること。

イ 農林水産業に係る営業損害については、依然として県内全域で風評被害が発生している状況を踏まえ、十分な賠償を確実に継続すること。

(2) 商工業等の営業損害に係る賠償

ア 商工業等に係る営業損害の一括賠償については、原子力発電所事故との相当因果関係の確認に当たり、個別訪問等による実態把握に努め、定性的要因を積極的に採用することなど、簡易な手法で柔軟に行うとともに、個別具体的な事情による損害についても誠意を持って対応すること。

また、一括賠償で年間逸失利益の2倍相当額の賠償を受けられなかった被害者からの相談や請求についても相談窓口等で丁寧に対応し、状況の変化があれば、的確な賠償を行うこと。

イ 同様の損害を受けている被害者が請求の方法や時期によって賠償の対応に相違が生じることのないよう、風評被害の相当因果関係の種類、判断根拠、東京電力の運用基準や個別事情に対応した事例を公表・周知するとともに、被害者への分かりやすい丁寧な説明を徹底して行うこと。

ウ 商工業等に係る営業損害の一括賠償後の取扱いについて、被害者からの相談や請求に丁寧に対応し、地域の状況や事業の特殊性、個別具体的な事情をしっかりと把握した上で、損害の範囲を幅広く捉え、被害の実態に見合った賠償を的確かつ迅速に行うこと。

また、原子力発電所事故との相当因果関係の確認に当たっては、一括賠償請求時の提出書類を最大限活用するなど、

手続の簡素化に取り組み、被害者の負担を軽減すること。

2 被害者や地域の実情を踏まえた賠償

(1) 被害の実態に見合った賠償

帰還困難区域や居住制限区域、避難指示解除準備区域はもとより、避難指示解除区域、旧緊急時避難準備区域、旧特定避難勧奨地点等を含め、住民や事業者の置かれている状況を十分に踏まえ、混乱や不公平を生じさせないように配慮しながら、被害の実態に見合った賠償を确实、迅速に行うこと。

(2) 住居確保に係る損害の賠償

ア 被害者が生活再建の見通しを立てることができるよう、帰還、移住のいずれの場合においても、地域の状況や被害者一人一人の事情に応じた賠償を柔軟かつ迅速に行うこと。

イ 移住先における宅地の取得費用の算定に当たっては、地価の動向を踏まえ、柔軟に対応すること。

ウ 賠償の対象となる費用や賠償額の算定方法等について、全ての被害者に分かりやすく丁寧に説明すること。

(3) 避難生活の長期化を踏まえた柔軟な対応

依然として多くの住民が避難を継続している被災地の実情をしっかりと受け止め、管理や使用が困難となった財物の価値の減少や喪失等について、被害者の生活や事業の再建を最優先にする観点から、被害の実態に見合った十分な賠償を确实に行うこと。

(4) 避難指示解除後の賠償が継続する「相当期間」

避難指示解除後の現状をしっかりと把握した上で、それぞれの地域の特別な状況や個別具体的な事情に応じて柔軟に対応し、生活や事業の再建のために必要な期間を确实に確保すること。

また、相当期間経過後の「特段の事情がある場合」については、個別具体的な事情に応じて柔軟に対応すること。

- (5) 精神的苦痛、生活費増加費用、就労不能損害等に係る賠償
帰還や避難生活の長期化等により生じる様々な精神的な苦痛、生活費の増加費用、就労不能に伴う損害、家賃等の避難費用等について、地域の実情や個別具体的な事情等に応じた適切な対応を含め、被害者の立場に立った賠償を行うこと。

3 被害者の視点に立った親身・迅速な賠償

- (1) 「中間指針第四次追補」の基本的な考え方に明記されたとおり、被害者からの賠償請求を真摯に受け止め、被害者の心情にも配慮し誠実に対応すること。
- (2) 「指針」は賠償範囲の最小限の基準であることを深く認識し、被害者の視点に立った柔軟な解釈の下で、賠償請求への迅速な対応など被害者優先の親身な賠償を行うこと。
- (3) 東京電力「福島復興本社」の機能強化はもとより、本県の実情や被害者の声をしっかりと把握した上で、誠意を持って迅速に賠償を行うとともに、「総合特別事業計画」に掲げられた「3つの誓い」を社員一人一人に厳守させること。
- (4) 賠償請求手続については、被害者の負担軽減を進めるとともに、全ての被害者が確実に賠償請求をすることができるよう、必要な相談体制をしっかりと確保し、賠償請求未了者への手続の一層の周知や、個別訪問等による手続の支援、相談窓口等での誠意ある丁寧な対応を徹底して行うこと。

4 原子力損害賠償紛争解決センターによる和解の仲介

- (1) 「原子力損害賠償紛争解決センター」が提示する「総括基準」や「和解仲介案」を原子力災害の原因者としての自覚を持って積極的に受け入れ、確実かつ迅速に賠償を行うとともに、同様の損害を受けている被害者に対しては、和解仲介の手続によらず直接請求によって、一律に対応すること。

- (2) 「原子力損害賠償紛争解決センター」による和解仲介実例を被害の状況が類似している地域等において同様に生じている損害に適用し、直接請求により全ての被害者への公平な賠償を確実にかつ迅速に行うこと。

5 自主的避難等に係る賠償

損害の範囲を幅広く捉え、県民それぞれの被害の実態に見合った賠償を行うとともに、個別具体的な事情による損害についても誠意を持って対応すること。

6 地方公共団体に係る賠償

- (1) 県内地方公共団体が住民の安全・安心を守るために行っている様々な検査等に要する費用や地域の復興のために実施している風評被害対策などの事業に要する費用等は、政府指示の有無に関わらず事故との因果関係が明らかであることから、賠償請求手続の簡素化に取り組むとともに、迅速かつ確実に賠償を行うこと。
- (2) 原子力発電所事故によって生じた税収の減少分について、目的税はもとより固定資産税を含む普通税も確実に賠償を行うこと。
- (3) 復興をさらに加速させる観点から、地方公共団体の財物の賠償については、県や市町村等の意向を十分に踏まえ、賠償基準を早急に確定させ、迅速に賠償を行うとともに、個別具体的な事情による損害についても柔軟に対応すること。
- (4) 「原子力損害賠償紛争解決センター」による県や市町村の和解仲介実例を被害の状況が類似している他の地方公共団体における損害にも適用し、直接請求により公平な賠償を確実にかつ迅速に行うこと。

7 消滅時効への対応

将来にわたり消滅時効を援用しないことを具体的かつ明確に示すとともに、時効期間の延長により賠償基準の策定や賠償金の支払を遅延させないこと。